

カトリック仙台司教区・ **カリタスジャパン** 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座:02260-9-2305
名義:カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座:00170-5-95979
名義:カリタスジャパン

米川ベースや大槌ベースでは、3年8ヶ月が過ぎ、徐々に、町として、復興のための、いろいろな企画が誕生し、実現に移されています。
まず、米川ベースが活動している南三陸町では「福祉まつり」が、社協とボランティアグループが力を合わせ、このまつりを立ち上げました。
大槌ベースでは、第1回「大槌町民大運動大会」の企画から参加し、大船渡ベースと米川ベースの力を借りて、大運動会で活躍しました。石巻ベースでは、カトリック藤沢教会のボランティアグループによるコンサートに同伴し、石巻ベースのオープンスペースを含む3カ所で、それぞれの聴衆に合った、寄り添いの演奏会を実現させました。末尾の「ご協力のお願ひ」も合わせて、どうぞご覧ください。

南三陸町福祉まつり ～みんな生き活き！円結び～

カリタス米川ベース 千葉 道生

10月4日（土）、南三陸町ベイサイドアリーナにて「みんな生き活き円結び～南三陸町福祉まつり」が行われました。

おまつり事前のミーティングに参加すると自動的に実行委員として加わる事になり、初めてお会いする方たちがたくさんいらっしゃいました。震災後、混乱の中、様々な団体が押し寄せてきて、被災地の人々は誰を信頼すれば良いのか難しい状況でした。しかし3年経ち、信頼できて力のある団体を見定めから、今年初めて南三陸社協が音頭をとり、行政と地元団体、支援団体の連絡会が4月に行われました。その流れもあり、米川ベースにも福祉まつりへの参加に声がかかりました。

準備のミーティングでは「まつりのキャッチコピーを考えてくるように。」と各団体に宿題がでました。私たち米川ベースもスタッフミーティングで、あ～でもない、こ～でもないと皆で冗談を交えながら楽しんでキャッチコピーを一生懸命考えました。



最近私が見た言葉で、「支援から支縁へ、支縁から支円へ」、という言葉がありました。「震災直後は支援、それから出来た縁をみんなで円にして復興へ向かっていこう！」という意味でした。そして東北には「結い」という相互扶助の文化があります。そこで、「円」と「結い」を繋ぎ「みんなで円結び」という言葉が生まれました。そのコピーを実行委員会で発表したところ、東北の人は繰り返す言葉が好きなので「みんな生き活き」という言葉を法テラスの方が発表し、主催の社協の方が「それでは合体して“みんな生き活き円結び”はどうですか？」という提案をしてくださり目出たくキャッチコピーが完成しました。一生懸命考えたコピーが少しでも使われて嬉しかったです。



パネルディスカッション会場の中央には、採用されたキャッチコピー「みんな生き活き！円結び」が掲げられていた

米川ベースの作成した
展示パネル



おまつりの前日は午後から準備を始めました。本当に南三陸のために頑張っている人たちの集まりなのでスムーズに準備が整っていきました。ベイサイドアリーナは震災直後、避難所や物資倉庫、警察本部があり、まつりのメイン会場には慰霊碑が建っていました。私は南三陸町に到着したばかりの時、ここでお祈りをしたのを今でも鮮明に覚えています。まつりは地元の創作太鼓の音とともに賑やかに始まり、副町長のメッセージをいただき開催されました。

私は撮影係として様々な催しの写真を撮影しました。各団体の活動パネル展示を見て、地元団体と支援団体との温度差を感じました。地元の方たちのパネルからは震災の様子を一切感じることはなく、支援団体はやはり被災した人たちへの支援という雰囲気でした。この温度差を縮めることが本格的に寄り添うという事だと思いました。

パネルディスカッションでは、南三陸町内の80代の男性、60代の女性、女子高校生、子育て中のお母さんが出演し、各グループで震災後の活動について発表してくれました。女子高校生は震災前「この町を出ていこう。」と考えていたそうですが、震災後「この町が好きになった、実は好きだったんだ、と気づいた！」と言い、現在南三陸町にくる海外の観光客に語り部ガイドを英語でしているそうです。そして「英語の先生になってこの町で生きていきたい！」と力強く話していました。他の方たちの発表もすべて「町が何かしてくれるのを待つのではなく、町のために自分は何ができるのか？」という姿勢が伝わってきました。それから障がいを持つ子どもたちが縦横無尽に会場を駆け巡り、ステージで自由に踊り、とても良い雰囲気になり、まつりが盛り上がっていきました。大勢の来客でベイサイドアリーナは一杯になり、地元と支援団体が一体となって福祉を身近なものに感じさせる素晴らしいまつりでした。私たちもこのような機会を通し、少しずつ地域に溶け込んでいく事が大切だと感じる一日でした。

みんなが一つになった 大槌町民大運動会

カリタス大槌ベース 片岡 英和

11月2日（日）に、第1回と銘打った「大槌町民大運動会」が開催されました。参加者は競技委員100名、競技者は事前申し込みでは400名弱でしたが、当日参加者が100名となり、総数600名近い人数にのぼりました。

大槌町の各地域、赤浜や吉里吉里などでは、去年から地区の運動会が開催されていましたが、町民全部を対象とした運動会はこれが最初です。復興を目指すという志のもと、大槌町青年部の役員を主体に有志による実行委員の立ち上げから、約半年をかけて開催にこぎつけました。

大槌ベースへも支援の要請があり、とても良い話でしたので二つ返事で快諾、参加させていただきました。協力の内容としては、競技係、駐車場係、またカリタスチームとして参加してほしいというものでした。必要人数としては全部で20名ほどに上りました。その日は大槌ベースのスタッフとボランティアを合わせても10名もいかない程度。いい機会でしたので、米川ベース・大船渡ベースへ支援をお願いしました。忙しい時期にもかかわらず快く承諾していただき、とても感謝しています。カリタスチームには、地元の仮設住宅支援員なども加わり、総勢25名のチームとなりました。



運動会では、カリタスTシャツも大活躍☆

当日、雨が心配されましたがなんとか持ち直し、予定通り小槌にある大槌小中学校仮設グラウンドで開催されました。午前中に運動会、午後は有志の方、また地元企業の方たちの炊き出しが計画されていました。

競技の内容は、借り物競争や綱引きなど普通の運動会でもあるような競技や、声出し合戦などの変わりもの、またバケツリレーといった防災に関連したものもありました。とはいっても借り物競争では、イケメンのお兄さんや美人のお姉さんを連れてくるとか、綱引きは十字になっている綱を4チームで同時に引くといった、普通ではやらない内容になっていて、みなさん本当に楽しんでいる様子でした。

住民の方の声で多かったものが、「やっぱりみんなが一つになって何かやるということは楽しいね!」というものでした。実行委員の方たちと、企画など難しいものだったけれどもやってよかった、とみんな喜び合いました。これから復興の状況によって町の様子が変わっていく中でもこの運動会は続けていかなければ……、決意も新たになったようです。



防災に関連した競技「バケツリレー」も行われました!



午後からはフェスタと称した炊き出しが行われ、ホタテなどの海産物、ひつまみ汁などがふるまわれました。本当に、参加者がみんな一つになった1日だったと思います。

当日の様子は3日の岩手日報でも紹介され、その写真には見事カリタスチームが写っていました。みなさんいい顔をしています。地元の方たちと一緒にチーを組めたことも今回いい経験です。これからも地域に溶け込んで一体となって、大槌町民と一緒に生きていこうと思います。



♪カリタスチームの皆さん♪

藤沢グループ音楽コンサート

カリタス石巻ベース 氏家 真理子

朝晩のピリッとした寒さと昼間のポカポカ陽気。ここ石巻にも東北らしい「秋」がやってきました。去る10月30日と31日の2日間、カトリック藤沢教会の音楽グループ4名が石巻ベースを拠点とし、ベース、近隣の幼稚園、ハンドベル演奏でもお世話になった夢広場（障害者福祉サービス施設）の3カ所で音楽コンサートを行いました。

滑らかなピアノ伴奏、ヴァイオリン二台の深みのある音色、そして惚れ惚れとてしまう美しい歌声。アヴェ・マリアやエーデルワイスなど心地良い歌もあれば、幼稚園では園児と一緒に歌って踊ったアンパンマンマーチやアナと雪の女王のLet it go～ありのままで～、そしてベースでは演歌や歌謡曲が始まるとさながらカラオケ大会のような大合唱。演奏場所でカラーの違う音楽コンサートとなりました。

30日の昼前、藤沢グループの音楽ボランティアである小藤さん、牧野さん、伊藤さん、片桐さんの4名がベースに到着されました。実は震災後に何度か音楽ボランティアとして石巻ベースで演奏されている皆さん。スタッフとの久しぶりの再会を喜び、「経験者」としての落ち着いた姿にどこか安心するのを感じます。



石巻ベース（オープンスペース）での演奏会

午後2時から始まったベースでの演奏会では静かな音楽が2曲終わると、一転、そこからはカラオケ大会に。「北酒場」や「北国の春」など演歌を演奏し始めると、カラオケ大好きな石巻の皆さんは大きな声で手拍子をし、「高校三年生」など懐かしの歌謡曲では多くの人が笑顔で歌っていたのが印象的でした。

「なかなか（演歌の）ヴァイオリンの楽譜は少なくて…」と話されていたヴァイオリン演奏者の牧野さんと伊藤さん。でも石巻の人たちの楽しむ姿に、「これだから演歌は外せないのよ」とボーカルの片桐さんも喜び、その後のお茶会でも有意義なひとときを過ごすことができました。



31日午前は、ベースから数分のプロテスタント系の幼稚園へ。その幼稚園の園長先生は、石巻ベース一階サロンの常連さんです。女性の牧師さんであり、今回の演奏を園児以上に楽しみにされていました。ベースに置いてあるアンパンマンのぬいぐるみを連れて行き、演奏場所である教会のオルガンの上にちょこんと置くと、園児たちはさっそくそれに気づき「アンパンマンだ！」と演奏前から大興奮。アンパンマンマーチでは一生懸命歌い、童謡やアナと雪の女王ではダンスをするように小さい体を弾ませていました。ピアノ担当の小藤さんも「アナと雪の女王は難しいけど、大喜びだったわ」とそのパワフルさに圧倒されながらも、子どもたちの屈託のない笑顔に囲まれ、スタッフも心温まる時間となりました。

午後はそのまま夢広場さんへ。上智大学のハンドベル演奏でもお世話になった場所です。その施設では音楽に触れる機会が少なく、利用者さんも感情を表に出すことが難しい方々が多いのですが、ベース同様「懐かしの歌謡曲・演歌メドレー」が始まると今までうつむいていた人も顔を上げ、微かに口元を動かす姿が見られました。そして美空ひばりさんの「川の流れのように」の演奏が終わると、とある高齢の利用者さんが手をあげ「まるでひばりさんがいるかのようだ」と声をかけたのです。懐かしむ表情の中に「音楽を楽しむ気持ち」を自然と引き出した藤沢グループの皆さんのすばらしさに触れた瞬間でした。最後は施設スタッフの皆さんもヴァイオリンに触れる機会があり、どの演奏会場でも、音楽を聴くだけでなく「心に寄り添う」演奏会になったのではないのでしょうか。

各々演奏場所の雰囲気に合わせて、曲目を準備された藤沢グループの皆さまに、私たちスタッフも身も心も満たされる演奏会となりました。



《ご協力のお願い》

徐々に寒さも厳しくなり、東北北部では、初雪の便りが聞こえてきました。各カリタスベースでは、12月に入ると仮設住宅集会所などでクリスマス会をはじめとしたイベントを行う予定です。

そこで、仙台教区サポートセンターや各ベースでは、クリスマス会へ参加された被災者の方や仮設にお住まいの方々へお渡しするためのプレゼントを集めております。

もし献品していただける場合には、品物をお送りいただく前に、必ず仙台教区サポートセンターやベースへお電話で確認を取っていただきますようお願いいたします。12月7日（日）までにご連絡をいただくと大変助かります。

連絡なしにお送りいただいた場合、受け取り出来ないこともございますので、必ず連絡をした上で、お送りくださいますようお願いいたします。また、品物によってはお断りする可能性もございますので、その際はご了承下さい。

《プレゼントについて》

- ・新品で、未開封のものをお願いします。
- ・手作りの品もOKです。
- ・ご自身がもらった時に嬉しい物をお願いします。
- ・宗教色の強いものは、ご遠慮ください。

※ご協力いただける場合は、12月7日（日）までに
仙台教区サポートセンターへご連絡やお問い合わせ下さい。
（電話番号：022-797-6643）

★去年のクリスマス会の様子★



【ボランティア募集中】

各カリタスベースでは、ボランティアを募集しております。
毎年寒さが厳しくなる10月から2月にかけて、どのベースでもボランティア数が激減します。

ボランティア活動へぜひご参加いただけますようお願いいたします。

お申し込み方法などは、『カリタスジャパンブログ』や各ベースのホームページ及びブログをご覧ください。

皆さまのお申し込みをお待ちしております。

カリタスジャパンブログ <http://caritasjapan.jugem.jp/>